大楠公

落合直文作詞
奥山朝恭作曲

1
青葉茂れる桜井の
里のわたりの夕まぐれ
木(こ)の下陰(したかげ)に駒とめて
世の行く末をつくづくと
忍ぶ鎧(よろい)の袖(そで)の上(え)に
散るは涙かはた露か

2
正成(まさしげ)涙を打ち払い
我子(わがこ)正行(まさつら)呼び寄せて
父は兵庫へ赴かん
彼方(かなた)の浦にて討死(うちじに)せん
いましはここまで来(きつ)れども
とくとく帰れ故郷(ふるさと)へ

3
父上いかにのたもうも
見捨てまつりてわれ一人
いかで帰らん帰られん
この正行は年こそは
未(いま)だ若けれ諸共(もろとも)に
御供(おんとも)仕(つか)えん死出の旅

4
いましをここより帰さんは
わが私(わたくし)の為ならず
己れ討死為さんには
世は尊氏(たかうじ)の儘(まま)ならん
早く生い立ち大君に
仕えまつれよ国の為め

5
この一刀(ひとふり)は往(いに)し年
君の賜いし物なるぞ
この世の別れの形見にと
いましにこれを贈りてん
行けよ正行故郷へ
老いたる母の待ちまさん

6
共に見送り見返りて
別れを惜む折りからに
復(また)も降り来る五月雨(さみだれ)の
空に聞こゆる時鳥(ほととぎす)
誰か哀(あわれ)と聞かざらん
あわれ血に泣くその声を

大楠公

1

青葉茂れる桜井の
里のわたりの夕まぐれ
木(こ)の下陰(したかげ)に
駒とめて
世の行く末をつくづくと
忍ぶ鎧(よろい)の
袖(そで)の上(え)に
散るは涙かはた露か

2

大楠公

正成(まさしげ)
涙を打ち払い
我子(わがこ)
正行(まさつら)呼び寄せて
父は兵庫へ赴かん
彼方(かなた)の浦にて
討死(うちじに)せん
いましはここまで
来(きつ)れども
とくとく帰れ
故郷(ふるさと)へ

大楠公

3

父上いかにのたもうも
見捨てまつりてわれ一人
いかで帰らん帰られん
この正行は年こそは
未(いま)だ若けれ
諸共(もろとも)に
御供(おんとも)
仕(つか)えん
死出の旅

大楠公

4

いましをここより帰さんは
わが私(わたくし)の
為ならず
己れ討死為さんには
世は尊氏(たかうじ)の
儘(まま)ならん
早く生い立ち大君に
仕えまつれよ国の為め

大楠公

5

この一刀(ひとふり)は
往(いに)し年
君の賜いし物なるぞ
この世の別れの形見にと
いましにこれを贈りてん
行けよ正行故郷へ
老いたる母の待ちまさん

大楠公

6

共に見送り見返りて
別れを惜む折りからに
復（また）も降り来る
五月雨（さみだれ）の
空に聞こゆる
時鳥（ほととぎす）
誰れか哀（あわれ）と
聞かざらん
あわれ血に泣くその声を